

第 1 6 回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和 5 4 年 8 月 1 5 日（水）

午後 2 時～4 時

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題 昭和 5 5 年度における宇宙開発関係
経費の見積り方針について

4. 資 料

委 1 6 - 1 第 1 5 回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）

委 1 . 6 - 2 昭和 5 5 年度における宇宙開発関係
経費の見積り方針（案）

第 15 回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨 （案）

1. 日 時 昭和 54 年 8 月 8 日（水）
午後 2 時～3 時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 第一部会の審議の結果について
4. 資 料

委 15-1 第 14 回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）

委 15-2 宇宙開発委員会第一部会報告書

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理
宇宙開発委員会委員

吉 識 雅 夫
八 藤 東 福
斎 藤 成 文

関係省庁職員等

科学技術庁長官官房審議官
文部省学術国際局審議官

神 津 信 男
大 崎 仁
（代理：斎藤）

通商産業省機械情報産業局次長

杉 山 和 男
（代理：吉田）

運輸省大臣官房審議官

西 村 康 雄
（代理：片岡）

〃 海上保安庁総務部長

福 田 稔
（代理：黒田）

〃 気象庁総務部長

相 良 英 明
（代理：山中）

郵政省電波監理局審議官

鴨 光一郎
（代理：藤原）

建設省大臣官房技術参事官

高 秀 秀 信
（代理：土肥）

東京大学宇宙航空研究所

秋 元 春 雄

宇宙開発事業団システム計画部

炭 電 豊 治

〃 〃

大 野 信 幸

〃 衛星設計第 2 グループ

市 川 洋

〃 〃

清 水 亨

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨が確認された。

(2) 第一部会の審議の結果について

八藤第一部長代理から、資料委 15-2 に基づいて説明が行われ、第一部会報告書が了承された。

なお、本件に関し、第一部長代理から、次のような発言があつた。

① 本年度の第一部会報告書は、従来のものとは異なり、そのまま見積り方針とはできず、今後、委員会において衛星計画について審議を行う必要のあること。

② 打上げ機数増加方策、N-11 ロケットの国産化等のために必要な対外折衝、文部省の要望の取扱い、当委員会としての実用段階の衛星の取扱いなどについて、委員会として早期に検討する必要があること。

委16-2

昭和55年度における宇宙開発関係経費 の見積り方針（案）

昭和54月8月15日
宇宙開発委員会
決 定

昭和55年度における宇宙開発関係経費の見積りは、下記の方針に基づいて行う。

1. 開 発

- (1) 日本測地原点の確立、国内測地三角網の規正、海洋測地網の整備等を目的とするとともに、測地衛星に関する技術の開発に資する測地衛星1号（GS-1）について、昭和58年度に打ち上げることを目標に開発を行う。

また、本衛星を打ち上げるとともに、H-Iロケットに使用する慣性誘導装置の搭載実験を行うことを目的とするN-IIロケット（二段式）5号機の開発を行う。

- (2) 人工衛星によるテレビジョン難視聴の解消等を図るとともに、放送衛星に関する技術の開発に資することを目的とする放送衛星2号（BS-2a及びBS-2b）について、昭和58年度に放送衛星2号-a（BS-2a）を、昭和60年度に放送衛星2号-b（BS-2b）を、それぞれ打ち上げることを目標に開発を行う。

また、放送衛星2号-a（BS-2a）の打上げ用ロケットとして、N-IIロケット6号機の開発を行う。

2. 開発研究

- (1) 地球、金星近傍の惑星間空間のプラズマの研究及び金星大気の光学的観測・研究を主目的とする第10号科学衛星（PLANET-A）について、開発研究を行う。
- (2) 米国の金星周回探査衛星（VOIR）計画への参加を予定し、電離層観測衛星の観測技術を応用した金星電離層観測装置の開発研究を行う。
- (3) 自主的な衛星基礎技術の確立及び移動体通信衛星システム等の開発を行うことを目的とする航空・海上技術衛星（AMES）について、開発研究を行う。
- (4) 米国のスペースシャトルを用い材料実験等を実施し、その際、パイロードスペシャリストとして日本人科学技術者を搭乗させることを目標に、所要の開発研究を行う。

3. 研 究

科学観測、海洋観測、陸域観測、資源探査、電磁環境観測、固体地球物理観測、移動体通信技術開発、搜索救難、回収・衛星共通バスその他の技術試験等を目的とする人工衛星について、

概念的なシステムの研究を行う。

4. その他

上記以外については、「宇宙開発計画（昭和53年度決定）」
を推進する。

昭和55年度における宇宙開発関係経費
の目録り方針（案）

昭和54年8月5日
宇宙開発委員会
決定

昭和55年度における宇宙開発関係経費の目録りは、下記の
方針に基づいて行う。

1. 開発

(1) 日本測地原点の確立、国内測地三角網の改正、海洋
測地網の整備等を目的とするとともに、測地衛星に関する
技術の開発に資する測地衛星1号（GS-1）について、昭和
58年度に打ち上げること为目标に開発を行う。

また、本衛星を打ち上げるとともに、H-Iロケットに使用する
慣性誘導装置の搭載実験を行うことを目的とするN-II
ロケット（=後式）5号機の開発を行う。

(2) 人工衛星によるテレビジョン難視聴の解消等を図るとともに、
放送衛星に関する技術の開発に資することを目的とする放送
衛星2号（BS-2a 及び BS-2b）について、昭和58年度に
放送衛星2号-a（BS-2a）を、昭和60年度に放送衛星

2号-b（BS-2b）を、それぞれ打ち上げること为目标に開発
を行う。

また、放送衛星2号-a（BS-2a）の打ち上げ用ロケットとして、
N-IIロケット6号機の開発を行う。

2. 開発研究

(1) 地球、金星近傍の惑星間空間のプラズマの研究 及び 金星
大気の光学的観測・研究を主目的とする第10号科学衛星
（PLANET-1）について、開発研究を行う。

(2) 米国の金星周回探査衛星（VOIR）計画への参加を予定し、
電離層観測衛星の観測技術を活用した金星電離層
観測装置の開発研究を行う。

(3) 自主的な衛星基礎技術の確立 及び 移動体通信衛星
システム等の開発を行うことを目的とする航空・海上技術衛星
（AMES）について、開発研究を行う。

(4) 米国のスペースシャトルを用いた材料実験等を実施し、その際、
パイロット・スペシャリストとして日本人科学技術者を搭乗させること
を目標に、所需の開発研究を行う。

3 研究

科学観測, 海洋観測, 陸域観測, 資源探査,
電磁環境観測, 固体地球物理観測, 移動体通信

技術開発, 捜索救難, 回収・衛星共通バス その他の技術試
験等を目的とする人工衛星について, 概念的なシステムの

研究を行う。

4 その他

上記以外については, 「宇宙開発計画(昭和53年度
決定)」を推進する。